

令和4年度 学校評価報告書

小樽市立花園小学校
校長 若林 晋

1 本年度の重点目標

『もっと前へ! 花園の子』
～将来の夢を持っている・堂々と意見が交わせる・協働できる子どもの育成～

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	◆全国学力・学習状況調査(6年)、標準学力調査(3・5年)において、国語・算数は、全道平均以上とする。	B	・全国学力・学習状況調査(6年)は、全道平均と比較して国語+2ポイント(全国比+1)、算数は-2ポイント(全国比-1)昨年度に比べ大幅改善。標準学力調査は、全道平均と比較して3年国語+1・3年算数+2ポイント、5年国語-3ポイント・5年算数+1・0、改善傾向にある。5年生において、数値目標に届かなかったことから、全国学力・学習状況調査の過去問題に取り組んだ。	◎
	特別支援教育の充実	◆対象となる全児童の「個別の指導計画」の作成と「個別の教育支援計画(後志版)」を整備し、活用する。 ◆コーディネーターを活用した、教育相談の充実を図る。	A	・特別支援学級児童11名の「個別の指導計画」の作成及び「個別の教育支援計画」の作成した。通級指導教室在籍児童の「個別の指導計画」の作成、「個別の教育支援計画」は作成中。コーディネーターを活用した教育相談は、定期的実施した。	◎
	国際理解教育の充実	◆3～6年生において、中学校教員(専科教員)による専門的な質の高い外国語授業(活動)を実施するとともに、児童アンケートで70%以上の児童が専科授業が楽しいと回答することを目指す。	A	・菁園中教員が通年で3～6年の外国語活動を担当。「外国語活動がよくわかる」に肯定的な回答が92.4%があり、効果を確認することができた。	◎
	理数教育の充実	◆高学年の中学校教諭による理科専科授業の充実を図るとともに、児童アンケートで70%以上の児童が専科授業が楽しいと回答することを目指す。	A	・理科の勉強がよくわかるが95.1%。全国学力学習状況調査、児童質問紙においても、「好き」と回答する割合が90%。後期の児童評価においてはよくわかるを楽しいとして実施し、90%以上を達成することができ効果を確認することができた。	◎
	情報教育の充実	◆各家庭におけるメディア使用に関するルールを80%以上が設定する。	B	・スマートゼンについて学校便りで周知。 ・中学年における情報モラル教室の実施。 ・情報教育の設定項目について、検証手段が不明確で次年度改善を要する。	◎
	キャリア教育の充実	◆全学年で職場体験や外部専門家等を指導者や講師とする出前授業等を活用したキャリア学習を実施する。	A	・1年給食センター調理員、2年図書館司書、3年警察署、4年終末処理場、5年食に関する仕事、6年ガラス製作体験、知産志食しりべし事業等を実施し職業教育について学ぶことができた。	◎
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくり5つのステップを意識した授業改善を日常の取組として充実させる。 ・基本的な学習規律や生活習慣等、児童の望ましい変容を促す組織的、重点的な取り組みを徹底して実行する。 ・4月に実施する、全国学力学習状況調査において、自己採点の結果、課題となる領域の重点的な復習を行う。 				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に関する取り組みについて、充実させること。 ・B評価について、次年度改善に取り組むこと。 				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	◆「いのちの日(1月27日)」に外部講師による「命の授業」を継続する。	A	・1月27日、前PTA会長(医師)を講師に命の日の集会(講演)を実施した。	◎
	ふるさと教育の充実	◆全学年で地域教材(施設・人材・歴史・自然等)を活用した学習を実施する。	A	・1年花園公園・入船公園 2年小樽水族館 3年小樽警察署 4年金融資料館・中央下水処理場 5年歴史的建造物写真 6年ウボボイ・火山科学館等地域教材を活用した学習をすべての学年で実施することができた。	◎
	読書活動の推進	◆50%以上の児童が毎日、家庭で読書をする。	C	・学力学習状況調査児童質問紙で毎日30分以上読書習慣がある児童は33.3%であるが、児童アンケートで読書が好きと回答した児童は、80%であり改善傾向がみられる。	◎
	体験活動の推進	◆「砂まきボランティア」など、地域の環境整備などの社会貢献活動を年1回以上実施する。	A	5年砂詰めペットボトルボランティア実施、令和5年2月、運河周辺で外国人観光客に対し、砂のボトル配付し交流を深めた。	◎
	コミュニケーション能力の育成	◆全国学力・学習状況調査において、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問に対して、肯定的に回答した児童の割合が60%以上とする。	A	・左記の質問に肯定的な回答をした児童は77.4%であり、目標を達成した。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	◆「手話教室」等の外部講師による人権や福祉に関する年1回以上授業を実施する。	A	5年生で、手話教室やアイマスク体験、車いす体験を9月に実施し、人権に対する意識を醸成することができた。	◎
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活において、自己肯定感を高める授業改善、生徒指導の充実を図る。図書委員会を活用した読書の推進を図る。 ・いじめ、不登校、問題行動の未然防止について、いつでも起こりうるものとして、常に危機感をもって情報交流の充実を図る。 				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の設定内容が、施策項目に対し効果を発揮できる内容としては不足と感じる。・読書活動の推進については、児童会活動や読み聞かせなどの充実を図り、少しずつでも取り組みを進めてほしい。・ボランティアや人権に関する授業を全学年で実施してほしい。とりわけ、人権教室が実施されていないことから、次年度は実施すること。 				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	◆全国体力・運動能力・運動習慣等調査の体力・運動能力において体力合計点が全道平均を上回る。	C	・全国体力・運動能力・運動習慣等調査の体力・運動能力において体力合計点が全道平均を上回ることができなかった。	◎
		食育の推進	◆栄養教諭による「食育教室」を全学年で実施し、「食育だより」を発行し、児童・保護者に対して、食育を積極的に啓発する。	A	・全学年で栄養教諭による食育教室の実施した。	◎
		健康教育の充実	◆「早寝・早起き・朝ご飯」の定着を児童の80%以上にする。	A	・学力学習状況調査児童質問紙で「早寝・早起き・朝ごはんをしている」に対し肯定的な回答をする児童は早寝83.9%早起き83.9%朝ごはん87.1%であり目標を達成することができた。	◎
改善方針		・1学期に実施する体力調査について、ねらいや調査項目の特性について理解したうえで、ある程度経験させたのち実施し、課題について方策とともに職員で共有化を図る。・休み時間など積極的に体を動かす習慣づくりを継続する。 ・基本的生活習慣形成(早寝早起き、挨拶、朝ごはん、メディアに関するルール等)の取組を奨励する。				
学校関係者評価委員による意見		・体力・運動能力の向上については、体力テストの結果を踏まえ、次年度については組織的な体力向上の取組を行う必要がある。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	◆普段、授業以外に学年×10分以上勉強している児童の割合が50%以上、全く勉強しない児童を5%以下とする。	B	・学力学習状況調査児童質問紙で学年×10分以上勉強している児童は51.6%、全く勉強していない児童は6.5%とやや課題が残る。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	◆地域行事や町内会等と連携・運動を図った取組を年2回以上実施する。	A	・感染症対策のため中止となっていた「小樽市と連携したグリーンロードのクリーン活動」町会・青園中と連携した潮ねりこみ参加」を再開することができた。	◎
改善方針		・学級通信、学年通信等で、学習の取組状況を視覚化し、家庭での学習習慣について理解を深めてもらう。 ・保護者会などで、学校の経営方針やいじめ防止の取り組みなどを伝え、信頼にこたえる学校づくりに努める。				
学校関係者評価委員による意見		・家庭教育については、引き続き協力をいただくよう発信する必要がある。 ・地域との連携について、再開の動きは良いことであり連携を充実させる必要がある。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	◆「小樽市における小中一貫教育の5つの視点」に基づく、小中一貫教育に取り組み、年間1回以上の教職員による協議会を実施する。	A	・青園中学校での体験授業や、小中一貫に関わる教職員の研修を実施し連携・協働を推進した。・12月21日小中合同の学校運営協議会を開催し、小中一貫教育について理解を深めていただいた。	◎
		教育環境の整備・充実	◆巡回チームを訪問時に、全学年でクロームブックを活用した授業を実施するとともに、活用研修会を年間1回以上実施する。	A	・巡回チーム来校時、全クラス、クロームブック等ICT端末機器を活用した授業及びGIGAサポーターによる研修会を実施した。 ・全児童のアンケート入力にクロームブック使用やAIドリルを活用し、授業改善に取り組んだ。	◎
		教職員の資質・能力の向上	◆体罰に関する調査で「体罰0」を継続する。	A	・12月調査において、教職員自己点検において、体罰案件は0件であり、通知等による教職員の意識を醸成することができた。	◎
		学校運営の改善	◆C4thを活用するとともに、業務のスリム化を図り、在校勤務時間45分/日の削減を進め、1か月について45時間/月(360時間/年)とする。	B	・1ヶ月45時間以上の超過勤務は、教頭を含む2人程度となり改善が図られた。 ・自己目標シートに働き方改革に関する個人目標の記入し面談を通して意識の醸成を図った。	◎
		学校安全教育の充実	◆年4回の想定(発生時間、災害種類、非通知…)を変えた避難訓練を実施する。	A	・6月、7月、9月、2月に計画通り、実施(火災、地震、緊急地震対応、冬季)することができた。	◎
改善方針		・校務運営システムを活用し、業務のスリム化を図る。 ・管理職が、教職員との個人面談等を活用して、不祥事防止と働き方改革について意識の高揚を図る。 ・「自分の命は自分で守る」意識を醸成する安全教育を引き続き推進する。				
学校関係者評価委員による意見		・働き方改革は、単に勤務時間を短くすることだけではなく教育内容の充実を伴う必要がある。				
社会教育に関連する目標(目標6～8)			◆1年～4年生において、年1回以上地域の商店街や図書館、博物館見学学習を実施し、地域の歴史や自然、産業について主体的に学ぶことを実施する。	A	・1年地域探検、2年図書館見学、3年栗原こまぼこ伊佐美などと連携した授業、4年上下水道施設の見学、屋形船で防波堤見学を通して、地域社会と自分たちの関わりを学ぶことができた。	◎
改善方針		・継続して地域の教育資源や教育施設の積極的な活用を図るとともに、教科との関連、指導内容、学年の系統性について次年度に向け教育課程における整備を進める。コロナを理由に実施を見送っていたものについて検証しながら取組の充実を図る。				
学校関係者評価委員による意見		・小樽市には、地域の教育資源がたくさんあるので、引き続き活用の充実を図ってほしい。				